



歯と口腔の健康

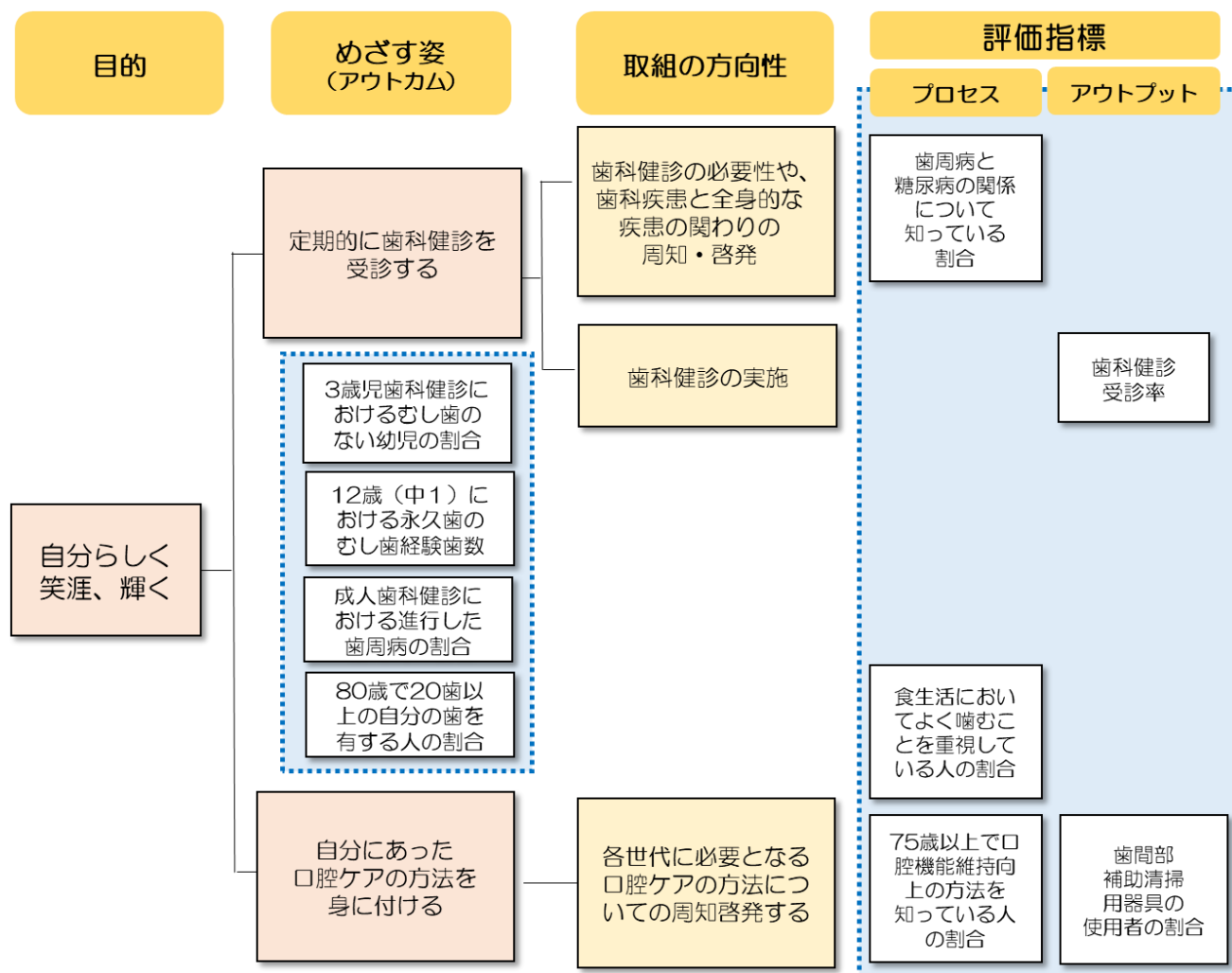
歯と口腔の健康は、健康寿命の延伸に関連が深く、口腔機能の維持向上が疾病予防につながり、自分の歯で噛んで食べることが、味わい豊かな食生活にもつながります。

定期的な健診受診により、歯科疾患予防や疾患の早期発見・治療に努めることが大切です。また、糖尿病や誤嚥性肺炎等、歯と口腔の健康と全身の健康との関連性や、口に関する些細な衰えが、口腔機能や食べる機能、更には心身の機能低下につながる恐れがあること（オーラルフレイル）にも関心を持ち、歯や口腔機能を通して健康への意識を高める必要があります。

分野でめざす姿

- 1 定期的に歯科健診を受診する
- 2 自分に合った口腔ケアの方法を身に付ける

取組と評価の関連図



分野でめざす姿1 定期的に歯科健診を受診する

現状・課題

現 状	・ 歯科健診受診率 年1回以上が55.7% 年代が高くなるにつれて増加の一方、 青年期で「ここ3年以上受けていない」21.3% ・ 子供のむし歯 3歳児健診でむし歯がある子供は減少傾向。 ・ 歯周炎、歯周病 診断を受けた者は壮年期で37.3% 高齢期で45.4% 成人歯科健診受診者において 進行した歯周病の割合は増加傾向。
課 題	・ 歯周病は糖尿病や、循環器疾患などのリスクを増加させる。 ・ 歯科疾患を早期に発見し、早期に治療を受けられるよう、すべての市民が生涯にわたって、定期的に歯科健診を受けることができる機会の確保と、受診の勧奨が必要である。

取組と評価指標

市民



次世代



就労世代



高齢世代



定期的に歯科健診を受診する

(1) 歯科健診の必要性や、歯科疾患と全身的な疾患の関わりへの周知・啓発



行政



定期的な歯科健診の必要性を啓発するとともに、課題である歯周病に対して、糖尿病や循環器疾患などの全身的な疾患と関わりがあることについても周知啓発を行います。

対象	室課名	取組内容
次世代	保健センター	・ 妊婦（両親）教室で妊産婦、乳幼児の歯科疾患や歯科健診の必要性の啓発を行う
	保育幼稚園室 保健給食室 杉の子学園 わかたけ園 地域支援センター	・ 各機関に所属する子供や保護者に定期的な歯科健診の必要性の周知啓発を行う

対象	室課名	取組内容
全世代	保健センター	歯科疾患の知識や、口腔ケアの方法について周知啓発を行う ・赤ちゃんの歯の広場を実施する ・各種歯科健康診査での歯科保健指導を行う ・歯と歯ぐきの健康教室を行い、歯科疾患と糖尿病、循環器病等の全身疾患との関連性について知識の普及啓発を行う ・出前講座や健康相談を行う
		≪口腔ケアセンター≫ ※歯科医師会に運営委託 ・口腔ケア推進補助事業 ・口腔ケアセンター活動推進事業、
	障がい福祉室	・障がい者施設通所者に対し、歯科健診時に歯科保健指導を行う
	図書館	

地域団体



様々な機会を捉えて、歯科健診受診の必要性や歯科疾患と全身的な疾患の関わりについて啓発を行います。

対象	地域団体名	取組内容
全世代	歯科医師会	・歯とお口に関する出前講座を行う ・高齢者のよい歯のコンクールを行う ・歯科保健表彰式を行う



評価指標	現状値 令和元年度（2019年度）	目標値 令和8年度（2026年度）
（健康まちづくり室） 歯周病と糖尿病の関係について知っている割合	60.2%	

※出展：健康に関する市民意識アンケート調査（R1）

(2) 歯科健診の実施



行政



すべての市民が生涯にわたって、定期的に歯科健診を受けることができる機会の提供と、受診勧奨を行います。

対象	室課名	取組内容
次世代	保育幼稚園室	・市立保育園で歯科健診事業を実施する
	保健給食室	・市立幼稚園で歯科健診事業を実施する ・小中学校で歯科健診事業を実施する
	杉の子学園 わかたけ園 地域支援センター	・杉の子学園、わかたけ園、地域支援センターで歯科健診事業を実施する
全世代	保健センター	・各種健康診査を実施する (妊婦歯科健康診査、産婦歯科健康診査、乳幼児健康診査、歯科健診フォロー事業、6歳臼歯健康診査、成人歯科健康診査、在宅要介護者・児訪問歯科健康診査)
	障がい福祉室	・障がい者施設通所者に対する歯科健診事業を実施する



評価指標	現状値 令和元年度（2019年度）	目標値 令和8年度（2026年度）
（健康まちづくり室） 歯科健診受診率 ※1	55.7%	
（保健センター） 3歳児歯科健診における むし歯のない幼児の割合 ※2	89.0%	
（保健給食室） 12歳（中学1年生）における 永久歯のむし歯経験歯数 ※3	0.58本	
（保健センター） 成人歯科健診における進行 した歯周病にかかっている 人の割合 ※4	35～44歳：55.1%	
（保健センター） 80歳で20歯以上の自分の 歯を有する人の割合 ※4	68.6%	

※1 出典：健康に関する市民意識アンケート調査（R1）

※2 出典：吹田市3歳児健康診査の歯科健康診査結果

※3 出典：吹田市児童生徒定期健康診断歯科健診結果

※4 出典：吹田市成人歯科健康診査結果

分野でめざす姿2 自分に合った口腔ケアの方法を身に付ける

現状・課題

現 状	• 子供のむし歯 3歳児健診でむし歯のない児の割合は増加傾向 • 歯周炎、歯周病 診断を受けた者は壮年期で37.3% 高齢期で45.4% 成人歯科健診受診者において進行した歯周病の割合は増加傾向 高齢者の口腔機能の状況 • 後期高齢者医療歯科健康診査受診者で、EAT10でえん下機能に問題あり（3点以上）は約10%。 • 年齢を重ねるごとに「咀嚼力」「えん下力」が低下の割合が高い。
課 題	• 次世代のむし歯は減少傾向であるが、就労世代・高齢世代の歯周病は悪化傾向。（全国的にも同様の傾向） • すべての世代において、日常生活で自分にあったセルフケアを行い、むし歯などの歯科疾患の予防、口腔機能の維持向上が必要である。 • 口腔機能の維持には「咀嚼力」と「えん下力」が重要である。 • オーラルフレイルを予防するために、若い世代から「咀嚼力（噛むこと）」へのアプローチを行うことが重要である。 • 高齢期においても、自分の歯で噛むことができるよう、歯の喪失原因である歯科疾患の予防が必要である。

取組と評価指標

市民



次世代 ★

就労世代 ★

高齢世代 ★

全ての世代において、自分にあった口腔ケアの方法を知り、身に付ける。高齢世代に限らず、次世代、就労世代から、口腔機能の維持・向上の必要性について理解する。

（1）各世代に必要なとなる口腔ケアの方法についての周知啓発する



行政



すべての世代に対して、日常生活で自分にあったセルフケア方法を行うための周知啓発を行うとともに、高齢期における口腔機能の低下を防ぐために、咀嚼力向上や、オーラルフレイルに関する周知啓発を行います。

対象	室課名	取組内容
次世代	保健センター	・妊婦（両親）教室で妊産婦、乳幼児の歯科疾患や予防のための口腔ケアの方法について周知啓発を行う ・赤ちゃんの歯の広場で乳児の口腔ケアの方法について周知啓発を行う ・各種歯科健康診査で歯科保健指導を行う
	保育幼稚園室	・市立保育園でむし歯予防の啓発を行う
	保健給食室	・市立幼稚園、小中学校でむし歯予防の啓発を行う ・歯科健診時に歯科保健指導を行う
	杉の子学園 わかたけ園 地域支援センター	・歯科健診時に歯科保健事業を行う
高齢世代	高齢福祉室	・吹田かみかみ健口体操の普及啓発を行う ・お口元気アップ教室を実施し、オーラルフレイル予防のため、お口の体操やブラッシング方法について学ぶ機会を提供する ・介護予防事業、保健事業と介護予防の一体的実施において、オーラルフレイルの啓発を行う
全世代	保健センター	・各種歯科健康診査での歯科保健指導 ・歯と歯ぐきの健康教室を行い、歯科疾患と糖尿病、循環器病等の全身疾患との関連性について知識の普及啓発を行う ・歯と歯ぐきの健康教室などで、働く世代からオーラルフレイルについての知識普及啓発を行う ・後期高齢者医療歯科健康診査等受診者に口腔衛生の重要性について普及啓発を行う ・出前講座や健康相談を行う
		≪口腔ケアセンター≫ ※歯科医師会に運営委託 ・口腔ケア推進補助事業 ・口腔ケアセンター活動推進事業、
	障がい福祉室	・障がい者施設通所者に対し、歯科健診時に歯科保健指導を行う
	図書館	

地域団体



各世代が集う場など、様々な機会を捉えて、口腔ケアの必要性や方法について啓発を行います。

対象	地域団体名	取組内容
全世代	歯科医師会	・ 歯とお口に関する出前講座を行う



評価指標	現状値 令和元年度（2019年度）	目標値 令和8年度（2026年度）
（健康まちづくり室） 食生活においてよく噛むことを重視している人の割合 ※1	26.6%	
（保健センター） 歯間部補助清掃用器具の使用者の割合（歯間ブラシもしくはデンタルフロス使用者の割合） ※2	35～44歳：68.4% 45～54歳：71.2%	
（保健センター） 75歳以上で口腔機能の維持向上の方法を知っている人の割合 ※3	15.3%	

※1 出典：健康に関する市民意識アンケート調査（R1）

※2 出典：吹田市成人歯科健康診査問診結果

※3 出典：吹田市成人歯科健康診査(75歳以上対象)受診者数

■「暮らし」にとけこむ健康づくりの取組



- ・ ナッジを活用し、セルフケアや健診受診につながる取組を展開する
- ・ 「暮らし」にとけこむ場での歯周病やオーラルフレイルなどに関する啓発を展開する
- ・ SNS を活用して啓発を展開する
- ・ 日常生活のなかでセルフケアがしやすい環境づくり（職場など）

例えばこういった取組が考えられます

- ・ 美容（ほうれい線解消、笑顔力など）の視点で、若い世代に対する口腔機能維持・向上に関するアプローチを行う
- ・ 健康経営の視点で、職場で習慣的に歯磨きができる環境を整備する